

平成17年度第一回教育システム検討委員会

日程

平成17年4月4日 11:30～11:45 (教室会議終了後)

出席者

小葉竹、渡邊、松本、

記録

小葉竹

資料

平成17年度入学生用自己診断シート

議題

- 1) 平成17年度入学生用自己診断シートの確認
 - ・今年度入学生用の自己診断シートの見本を確認し、必要部数のコピーを依頼
- 2) メーリングリストの作成について
 - ・昨年度のものを修正する
 - ・未登録の先生についての対策を話し合った
- 3) シラバス入力について
 - ・教務係からの指示に従って、迅速に入力することを依頼する

以上

教育プログラム関連事項(教育システム検討委員会)を含む教室会議

日時

平成17年6月17日 15:00～16:30

出席者

辻学科長以下8名

記録

小葉竹 (教育システム検討小委員会関係のみ)

資料

現代GP申請書

議題

- 1) 現代GP (実戦的英語教育に関するプログラム) の委員会立ち上げの報告と内容について確認した。
- 2) JABEE 継続審査に向けての方針を話し合った。
- 3) インターンシップについて、建設工学科も参加する方針を確認した。

以上

教育プログラム関連事項(教育システム検討委員会)を含む教室会議

日時 : 平成17年9月28日 12:00～13:00

出席者 : 辻学科長以下7名

記録 : 小葉竹 (教育システム検討小委員会関係のみ)

資料 : 高大連携に関する資料

議題 :

1. 来年度の高大連携授業は防災工学とすることに決定した。
2. 現代GPは月曜日3, 4コマに行うこととした。
3. 1年生次の情報処理は片田・金井が担当することとなった。

教育プログラム関連事項(教育システム検討委員会)を含む教室会議

日時

平成17年11月15日 12:00～13:30

出席者

辻学科長以下9名

記録

小葉竹 (教育システム検討小委員会関係のみ)

資料

推薦入試関連資料

議題

1) 平成18年度推薦入試について

- ・平成18年度の推薦入試定員について、10名から7名に変更する案が議論され、7名に決定した。

以上

教育プログラム関連事項(教育システム検討委員会)を含む教室会議

日時

平成18年1月27日 15:00～16:50

出席者

辻学科長以下7名

記録

小葉竹（教育システム検討小委員会関係のみ）

資料

工学部将来構想（案）

議題：重点化に伴う建設工学科の改組について

1) 学科名称（専攻名称）について

- ・従来の将来構想（案）と全く異なる、新たな改組再編案が立ち上がり、実現の可能性の高いことが報告された。これに伴う、建設工学科の新たな専攻名について議論された。

2) 学科（専攻）の教育内容について

- ・新たな学科でも、従来の教育内容を変更する必要はないことが報告された。しかし、新たな組織となることから、従来の教育内容を変更することなく、時代の要請に即した講義名とすることや、新たな内容も付加することで一致した。これに伴うカリキュラム案は将来構想委員で検討することとした。ただし、これらは JABEE の認定内容にも係わることなので、確認をとりながら進めることとした。

以上

教育プログラム関連事項(教育システム検討委員会)を含む教室会議

日時

平成18年2月20日 15:30～16:30

出席者

辻学科長以下8名

記録

小葉竹（教育システム検討小委員会関係のみ）

資料

工学部重点化資料

カリキュラム案

議題：重点化に伴う建設工学科の改組について

1) 学科名称（専攻名称）について

- ・専攻名は旧生物化学工学科の一部と専攻を構成することから、環境創生工学専攻とする方向であることが報告された。これに併せて建設工学科の新名称が議論され、社会環境デザイン工学ではどうかとの意見があった。

2) 学科（専攻）の教育内容について

- ・今日の土木技術者は高い専門性だけでなく広範な視野を有することが求められている。これと関連して、カリキュラム中の選択必修科目の履修方法を見直した方が良いとの意見が出された。
- ・これについて、学科の教育プログラム内に複数コースを設置する趣旨ではないが、従来は卒業要件を満たすための選択必修科目群の履修方法として、社会基盤工学コースと都市工学コースという二種類の履修方法を設けており、これは学生の科目選択の自主性を高めることによる教育効果を狙って設置した制度である。
- ・しかし、今日では、これら選択必修科目群のいずれも履修希望する学生が多く、この制度の果たす役割は小さくなったと判断される。すなわち、改組後のカリキュラムにおいては、従来の学習・教育目標を変更することなく、これらの履修選択制度だけを廃止することで意見が一致した。
- ・時代の要請にあった社会環境デザイン工学は、どうあるべきかという基本理念について意見交換を行った。
- ・このとき、高校生への「売り」も重要であるとの認識が示された。

以上